

大学生等の県内定着に向けた現状と課題

- ・学生は県内企業を知らない。（特にBtoB企業）
- ・学生は地域や職業に関して様々な志向を持っており、自身の価値観や働くことに対する考え方も多様であることから、企業は学生が欲しい情報を踏まえ、情報を発信する必要がある。
- ・学生にとっては、大学生活の充実が優先されるため、低学年のうちから就職活動の要素が入り込むことのないキャリア教育が必要となる。

課題解決に向けた意見

<大学委員から>

- ・学生は企業のことを知らないが、企業も学生の多様な価値観や考え方を知らない。
- ・県内就職率を上げて、企業と学生とのミスマッチが起きては意味がない。
- ・まずは企業を見て、働く姿を感じてもらうところから始めるべきである。（以前コンソーシアムが実施した『ジョブシャドウ型インターンシップ』がよい。）
- ・企業を知ってもらうために大学を上手く使ってほしい。

<企業委員から>

- ・自分が得意な分野が何かをしっかりと分析できる学生であれば、企業が求める人材とマッチして定着に繋がっていく。
- ・学生が現場に行って、企業の雰囲気や働いている姿をよりリアルに感じられるような機会が必要
- ・企業の名前を知ってもらうことが重要である。
- ・企業には大学との連携を深めていくことが求められる。

※ジョブシャドウイング

…学生が様々な企業の社員に一日同行し、どのような仕事をしているか体感すること

課題解決に向けた方向性

- ①企業が、様々な志向を持つ学生がいることを知る機会を設け、学生が欲しい情報を把握する。
- ②それらの情報について、学生に知ってもらう機会を創出する。
- ③大学と企業間の連携体制の強化を進めていく。

課題解決に向けた取組

- ①②学生と企業の相互理解の機会を含めた、モデルとなるキャリア教育プログラムの構築
- ③連携企業の開拓
(大学コンソーシアムが両者のハブ機能を担う)

県内産業の理解促進

【概要・目的】

本県の産業・企業を知るための産学官連携による企業体験型授業を開講することにより、地元企業の理解促進を図るとともに、県内企業を選択する動機付けを行う。

【日程】

令和5年8月22日（火）～8月25日（金）

【参加学生数】

計60人（東部17人、中部20人、西部23人）

【講義内容】

- ・座学（本県の産業や企業について等）
- ・フィールドワーク（企業見学、企業説明、体験、質疑応答等）



【スケジュール・訪問先】

実施日	静岡県の産業イノベーション	静岡県の産業イノベーションII	静岡県の産業イノベーションIII
1日目	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・本県産業 ・企業に関する講義（現状と課題等） ・ワークショップ 		
2日目	企業見学～西部地域 パイオニクス 増田採種場	企業見学～中部地域 山崎製作所 生活協同組合ユークロブ	企業見学～東部地域 ファルマバレーセンター 東海部品工業
3日目	マキノハボ サーフスタジオジャパン 矢崎部品	協和サエンジニアリング いちまる CSA不動産	サトムーン柿田川 エステック ELFIE GREEN 沼津港市場 エドイデー
4日目	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ ・実習の振り返り ・総括 		

【受講生感想（一部）】

- ・あまり知ることのなかった県内の中小企業を知れてよかった。
- ・県内出身だが、知らないことも多く、多くの学びを得た。
- ・自分の目で企業を見て、直接話が聞けたのは良かった。
- ・起業家の生き様を知り、チャレンジ精神を見習いたいと思った。

県内大学による取組強化

【概要】

県内大学等が独自で行う学生の県内定着促進に向けた取組支援

【募集期間】

令和5年5月11日（木）～6月23日（金）

【助成決定数】

4大学／6件（助成総額916千円）

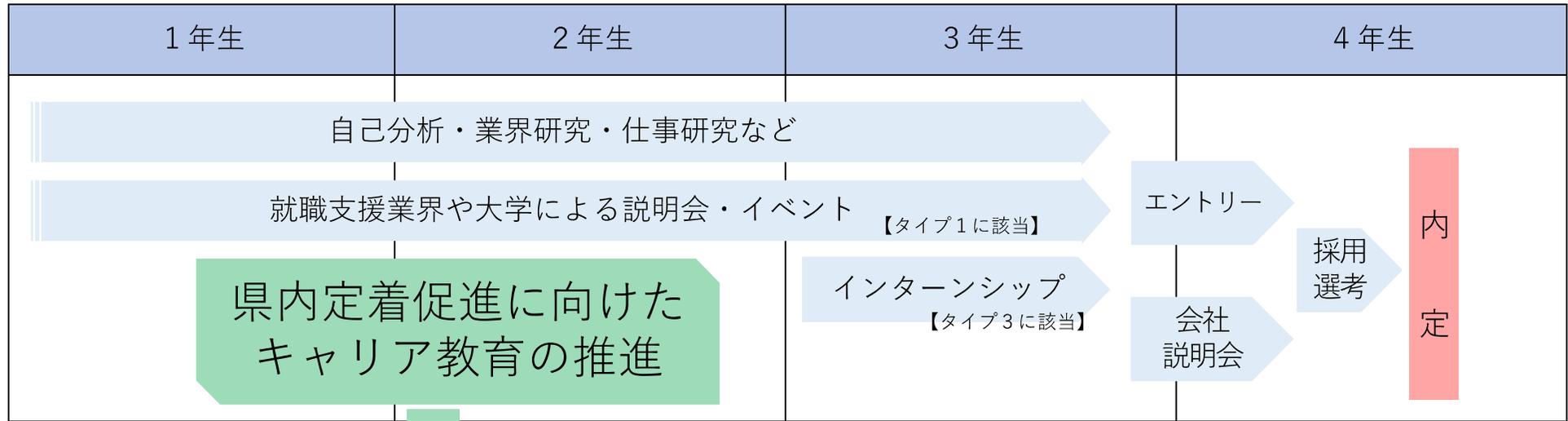
【二次募集】

令和5年9月4日（月）～9月29日（金）

【助成内容】

- ・県内で活躍中の卒業生を活用した授業の開講
- ・地域産業や企業への理解を深める県内企業バスツアーの実施
- ・障害のある学生の雇用促進に向けた就職ガイダンスや講演、就職相談・交流会の実施
- ・県内企業で資格を活用し自身のキャリアを磨いている社会人と学生とが接点を持つための交流会の実施

大学生の就活に向けたロードマップ



	キャリア教育プログラム（案）	企業体験型授業 （産業イノベーション）
該当する類型	タイプ2（キャリア教育）	タイプ1（オープンカンパニー）
目的	キャリア形成に関心を持つ学生に向けた 県内就職を考える機会の創出	本県の地域や企業の理解促進（きっかけ）
内容	企業見学、就業体験、従業員との交流 ※「ワークラリーしずおか」の取組を活用	企業見学、企業説明
備考	春季休業等の長期休業期間に実施	短期集中互換授業として実施

※ワークラリーしずおかの概要

- ・ ワークラリーしずおか（企業見学会）
県雇用推進課（現：労働雇用政策課）で実施していた、学生や既卒3年以内の未就職者を対象とした県内企業を見学する機会の提供
- ・ ワークラリーしずおかインターンシップ
上記をベースとし、コンソーシアムインターンシップ推進事業実施委員会が実施していた、ジョブシャドウ型インターンシップ（企業見学や就業の様子を観察）

○学生と企業との相互理解の場を含めた、就業体験を含むキャリア教育プログラムを構築する。

キャリア教育プログラムのモデル案

<考え方>

学生及び企業の双方にとって利のある機会とする。
 学生...自身のキャリアの検討や、今後のインターンシップに向けた経験の場とする。
 企業...学生の志向に対応したインターンシップの構築に向けた実証の場とする。

<想定>

実施期間：春季休暇中
 実施日数：全6日間
 実習先企業：①事務系企業
 ②製造業等の現場を持つ企業

<スケジュール>

※1日目の事前学習と2日目からの現場実習は1週間ほど期間を空ける。

日数	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
	事前学習	実習先①		実習先②		事後学習
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・実習先調査 ・課題シートの作成 (目標や課題の整理) 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業説明 ・企業見学 ・意見交換 (互いを知る場) 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験実習 ・若手社員との交流会 ・振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業説明 ・企業見学 ・現場見学 ・意見交換 (互いを知る場) 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験実習 ・若手社員との交流会 ・振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ・フィードバック

<検討すべき事項>

- ・モデル案の内容（実施日数、実習先企業の業種、実習先企業の地域、実習先で何を行うか等）
- ・既存の取組を活用することはできないか。
- ・プログラムの参加に伴う学生へのインセンティブをどうしたらよいか。（プログラムの単位化等）
- ・プログラムの実施に当たっての『地域』に対する解釈の統一